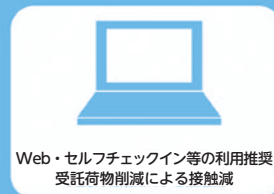
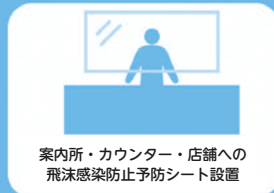
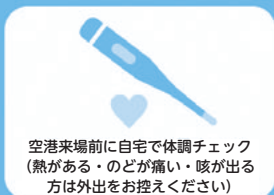


空港からのご案内

～安心して空港をご利用いただくために～
セントレアの感染症対策の取り組みとお客様へのお願い

新しい
空港利用の
11のポイント



centrair

県営名古屋空港からのお知らせ

空港をご利用の際は、航空機やバスの運行状況、旅客ターミナルビルの開館時間、店舗や施設の営業時間などの最新の情報を各社ホームページなどでご確認ください。

新しい生活様式やマナーを守ったご利用にご協力をお願いします。



二子町にある山神社が建つ高台

今年、愛西市が平成の大合併(2005(平成17)年)により成立して15年の節目です。市の北西部である八開地区は、1906(明治39)年に八輪村と開治村が合併した八開村が起源です。八輪村は江西や赤目など八つの輪中集落が、開治村は鵜多須や二子などの集落が合併して成立した村です。当時は佐屋川が二村の境でした。

明治時代までは、木曾川から佐屋川が分流し、現在の愛西市域を南北に貫いて流れていました。江戸時代初頭、尾張藩を囲うように御囲堤が築かれます。しかし、当地では佐屋川左岸に御囲堤が築かれ、対岸には立田



給父町にある高須街道の道標

輪中が形成されました。佐屋川が廃川となった今、二子町にある山神社が建っている高台は、御囲堤の貴重な名残です。

八開地区の代表風景に東海大橋があります。それは江戸時代の重要な街道、尾張藩と高須藩とをつなぐ高須街道が当地を通り、重要な渡しがあつた歴史を物語ります。今も周辺には、高須街道の道標、三輪市太郎の顕彰碑などが残っています。また、藤ヶ瀬町や赤目町は、尾張藩の重職を担った横井家の在所だった歴史があります。領内川・鷹場町などの地名にその歴史が記憶され、菩提寺などの史跡があります。

市観光協会 ☎(55)9993

あいさい見聞録

その29 町の起源・八開

